

[K4] 海外大学との連携による課題研究テーマの深化

海外フィールドワークでは、大学、高校、企業と連携したプログラムを組み立てた。マレーシア・シンガポール、オーストラリア、アメリカ合衆国の3コースで、下記表のように連携機関と協働し、フィールドワークを実施した。K4節では、マレーシア・シンガポールコース、K6節でオーストラリアコース、K7節でアメリカ合衆国コースを報告する。

	マレーシア・シンガポール	オーストラリア	アメリカ合衆国
大学	マレーシア工科大学	タスマニア大学	カリフォルニア大学アーバイン校
現地校	シンガポール国立大学	現地小学校	(ジェットロロサンゼルス)
企業	Vivid Creations Pte Ltd	Doq Pty Ltd	堀場製作所

- 1 目的 (1) 現地大学と連携したフィールドワーク、講演、文化交流、現地高校と連携したアカデミックワークショップ、文化交流、現地企業と連携したフィールドワーク等により、生徒の課題研究の進展及び国際意識を身につける。

(2) 将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。
- 2 日程 平成30年(2018年) 8月13日(火)～21日(火)
- 3 方面 マレーシア・クアラルンプール及びシンガポール
- 4 参加者 2年生7名 引率2名 添乗員1名

日次	日付	地名	現地時間	交通機関	日程
1	8/14 (火)	成田空港 クアラルンプール	8:30 11:20 17:45	JL723 専用車(ガイド)	成田空港集合後、チェックイン、出国手続 空路、クアラルンプールへ 到着後、専用車にて市内レストランで食事、その後、ホテル(UTM)へ (クアラルンプール泊)
2	8/15 (水)	クアラルンプール滞 在	終日	公共交通機関	午前、マレーシア工科大学でワークショップ等 午後、グループごとに市内でフィールドワーク (クアラルンプール泊)
3	8/16 (木)	クアラルンプール滞 在	終日 夕方	公共交通機関	午前、グループごとに市内でフィールドワーク 午後、マレーシア工科大学でプレゼン 市内レストランで夕食 (クアラルンプール泊)
4	8/17 (金)	ジョホールバル滞 在	9:00	専用車(ガイド)	バスにてホームステイ先へ 到着後、ウェルカムパーティ&昼食 終了後、各家庭へ(2~3名1室) ※夕食は各家庭にて(生徒ホームステイ、先生近隣ホテル泊)
5	8/18 (土)	シンガポール	8:00	専用車(ガイド)	ホームステイ先にて朝食 アグロツアー(農園視察) 村発、バスにてジョホールバルへ ※※※※通関※※※※ シンガポールにて昼食 フィールド調査(イースト・コースト・パーク) ホーカーセンターにて夕食 ホテル着(シンガポールコース泊)
6	8/19 (日)	シンガポール	8:30- 9:30 9:30 12:0 19:00	バス・MRT	移動 フィールド調査(ウェスト・コースト・パーク) シンガポール国立大学にて昼食 シンガポール国立大学内にてインタビュー調査・プレゼン準備 シンガポール国立大学にて夕食
7	8/20 (月)	シンガポール	9:00 14:30 17:00 21:50	専用車 JL36	グループ別フィールド調査(ウェスト・コースト・パーク) グループ毎に昼食 集合後、現地企業へ 現地企業で最終プレゼンテーション マリナ地区で研修・夕食 シンガポール国際空港へ 空路、羽田へ
8	8/21 (火)	羽田空港	5:50		到着後、入国・通関後、解散

5 各日の内容, 生徒感想, 写真

【1日目】8/14(火) 出国, クアラルンプールへ入国。夕食後, マレーシア工科大学内の宿舎に到着した。

【2日目】8/15(水) マレーシア工科大学でプログラムのオープニングセレモニーの後, TA 学生さんとフィールドワーク計画をたて, 市内フィールドワークへ出かけた。マンツーマンでTA さんがついてくれたため, 100%英語環境で, 調査に行きたい場所を自分で決めて自分で行くという理想的な研究環境だった。

金井

TA さんとのフィールドワークに, どんな感想を持った?

TA さんに質問されることで, プレゼンの中に, 不明瞭な部分があったことに気づかれ, より考えを深めることができた。

平山

今日はドリアンアイスを食べてみた。このように, 外国のものをどんどん試してみることができるのは, グローバルな時代ならではのこと。外国の文化を存分に楽しんでいきたい。

大堀

TA のタンさんの母校を見学させてもらったが, マレー系・中華系・インド系の方々がいっしょに勉強しているようだ。日本ではどうしても, 外国人は特異な目で見られるが, マレーシアは地球の縮図のようなところで, 最初から“他民族である”ことが前提となっている。だから, 一緒にうまくやっていけるのではないかな。

鷹尾

【3日目】8/16(木) フィールドワークの調査結果を英語で発表し, 質疑応答を行った。2日間のプログラムの修了証をいただき, レセプションでは学校と日本文化紹介を行った。

金井

プレゼンテーションと質疑応答を通して, 何を学んだ?

たった2日間しか一緒に過ごしていないTA さんとここまで親しくなれたことに, 正直, 驚いている。日本人相手でも, 外国人相手でも, 一番大切なことはコミュニケーションなのだと最認識した。

星

他の人のプレゼンの準備が早いと思っていたが, スライドを絵だけで構成している人が多かった。スライドに文字を入れることに時間をかけすぎて, 話す原稿を考えていなかった。そのためプレゼン中につかえることが多かったのが反省点だ。

永井

【4日目】 8/17(金) ~ ジョホール州の小さな村の家庭に、1泊2日でホームステイを行った。

金井

現地の家庭と同じ生活をして、何を感じた？

「完璧な英語で話せないこと」よりも、「機会があるのに何も話さない」ことを恥ずかしいと感じるようになった。言語が通じなくても、言いたいことは分かる。後輩には、自分の英語レベルを気にする前に、相手に自分の思いを伝えてみてほしいと思う。

星

【5日目】 8/18(土) マレーシアから陸路で国境を越え、シンガポールに入国した。シンガポールでは、ローカルの方しかいない場所に出かけ、インタビュー調査などを行った。

金井

グローバルな世界では、どのような態度が適していると思う？

これまで私は、「なんとかして伝えたい」という意志が少し足りなかったかもしれないと思った。「受け入れる気持ち」と「伝えたいという気持ち」は両方必要。違うところを受け入れ、似たところを楽しむことが大事なのではないかと思った。

鷹尾



マレーシア工科大のTAさんと1:1で班分け。研究計画を立てた後、各班でフィールドワークへ。



KLCCを見下ろす丘をTAさんが案内して下さり、最高の夜景をバックに記念撮影。



シンガポール国立大学の学生さんも、夜8時まで調査につきあってくださった。

【6日目】8/19（日） シンガポール国立大学では、4名の学生さんに歓迎していただき、研究プランのプレゼンテーションと学内ツアーをしていただいた。

【7日目】8/20（月） 最終日も、各グループに分かれて調査。交通機関に乗りユーザビリティを確かめるグループ、インタビュー調査をするグループ、観光と教育を組み合わせた施設を見学するグループなどに分かれて有意義な調査を行った。その後、企業での最終プレゼンテーション。ビジネスのプロから、鋭い指摘をいただいた。

金井

今回の海外フィールドワークで自分が変容したと思うことは？

見るものすべてが新鮮で、好奇心が刺激された。また、知らなかった世界を知り、もっと深く知りたいと思った。この気持ちを大切にしたい。

横田

海外フィールドワークというはじめての体験で、違った言語の人々に伝える大変さを知ると同時に、工夫して伝える楽しさ、伝わったときの達成感を知った。また、複数回のプレゼンを通して、自分なりのプレゼンのスタイルを身につけることができた。(はっきり話す・イラストの活用・相手に目を合わせるなど)自分の意見を物怖じせずに話すことができるようになった。

横田

フィールドワーク中は、受け身な姿勢では絶対にうまく行かなかったので、探究心を持つ姿勢作りができた。人と英語で話すときは、どうしても気後れしてしまう部分があったけど、今回の経験で、決して自分の英語が伝わらないことはないんだと感じられ、これからの自信につながった。勇気を出して話してみることがとても大切だと思う。

大石



メンバー全員で集合写真